

## 第46回 原爆 死没者慰霊式

# 誓い新たに 恒久平和と核廃絶

国労長崎  
地区本部

8月9日、73回目の「長崎原爆の日」を迎えた。第46回国鉄原爆死没者慰霊式が浦上駅構内の慰霊碑前で執り行われた。今年新たに2名の方々の御霊が合祀された。

慰霊式は、上之濱書記長の司会で始まり、2名の方々の合祀、黙とう、島田執行委員の碑文朗読とつづき、

実行委員長長の豊田長崎地区本部長は、慰霊碑の清掃や維持管理に協力を頂いている鉄道退職者の会他関係者に謝辞を述べた。また、国連本部での条約交渉会議に触れ唯一の被爆国の日本が積極的に参加しない事態に怒りと抗議を発し、先輩の運動の意思を継ぎ、原水爆禁止、核廃絶、世界の恒久平和を強く訴える事を誓った。

国鉄原爆被爆者対策協議会を代表して千々岩国労九州本部委員長は、原子爆弾が長崎に投下された今日、戦争の悲惨さと後遺症に苦しみなながら生涯を国鉄に捧げられた先輩達に敬意を表し、恒久平和と核廃絶に向けて誓いを新たにしたい。九州旅客鉄道長崎支社の堤和信

副支社長は、被爆地へいち早く救援列車を動かし、わが身を省みず国鉄職員としての使命を全うされた諸先輩に敬意を表し、ゆるぎない平和を築きあげていくと決意を新たにしたい。JR九州は、「安全とサービス」を基盤とし、地域の皆様から愛され親しまれる鉄道にしていくと追悼の言葉を代読した。

その後、宇都宮執行委員のメッセージ披露、参加者の献花を行った。(御所)



【新たに2名の方々の御霊が合祀された】



【関係者、遺族、組合員約100名が参列した】



【司会の上之濱書記長】



【挨拶する豊田委員長】